

ウスバカマキリ

Mantis religiosa Linnaeus
カマキリ目・カマキリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

県内の既知産地は2か所のみ。今回既知産地で調査を行ったが確認できなかった。全国的に分布は局地的であるが、造成跡地の草地でも得られていて、調査の継続により本県でも新たな生息地が見つかることが期待される。

種の特徴

体長47～65mm。体色は淡緑または淡褐色。年1回、成虫は夏～秋に出現する。草地や河川敷の草原等、明るい開けた環境に生息するが、干拓地や造成跡地等の人工的な草地で得られることもあるという。

分布

北海道南部～南西諸島に分布。県内では高浜町音海と永平寺町下合月での記録がある。今回は既知産地で調査を行ったが確認できなかった。

生息を脅かす要因

草地の開発や管理放棄が脅威となる。永平寺町下合月の九頭竜川河川敷では1997年に本種が多数確認されたようであるが、今回はまったく確認できなかった。草地の密生化等、河川敷の草地環境の変化が懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、平嶋・森本（2008）、環境省（2015）、宮武・加納（1992）、下野谷（2000）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○							○							

ナカジマシロアリ

Glyptotermes nakajimai Morimoto
シロアリ目・レイビシロアリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

1994年に確認されて以来、県内での記録はない。小浜市蒼島は本種の日本海側唯一の記録地であり、島が国の天然記念物に指定されて環境が保全されているものの、本種の近年の生息状況は把握できていない。他地域での生息可能性の検証も含め、注視が必要である。

種の特徴

有翅虫は体長約6mm、前翅長7mm。光沢のある黒褐色。褐色の翅は、前縁の3本の翅脈が濃褐色に色づく。触角は短く、9～10節。兵蟻の体長5.0～6.5mm。タブ、イスノキ、サクラ、アカガシ等の枯れ枝や腐朽が進む前の硬い広葉樹枯木に生息する。

分布

本県のほか、和歌山、徳島、高知、大分、宮崎、鹿児島県の海岸地域、奄美大島、沖縄本島とその属島、小笠原諸島に分布する。県内では小浜市蒼島に記録があるのみである。

生息を脅かす要因

原生の暖地性植物群落がみられる蒼島は国の天然記念物として保護されているため、人為的な自然改変の心配はないが、サギ類やウミウが棲みついて大きな繁殖コロニーをつくることにより、自然環境が変化すると、本種の存続に影響を与える。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然保護課（2002）、平嶋・森本（2008）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○												

クチココオロギ

Duolandrevus ivani (Gorochov)
バッタ目・マツムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回の調査で新たな生息地も確認されたが、大木を含む照葉樹林が主な生息地となることから、分布は局地的であると考えられる。京都府で要注目に指定されており、本県でも注視の継続が必要と判断した。

種の特徴

体長オス30～35mm、メス30～32mm。暖地性の種で、照葉樹林内の樹皮下や岩の割れ目等に棲む。決まった越冬態はなく、幼虫・成虫ともに周年みられる。昼間は岩の割れ目や樹皮の下等に隠れていて、主に夜に活動する。

分布

県内では高浜町音海、若狭町世久津～世久見、御神島、敦賀市中池見で記録があり、今回は若狭町常神半島周辺、小浜市内外海半島周辺、敦賀市内で新たに確認された。

生息を脅かす要因

照葉樹の樹皮下から採集されることが多く、大木を含む照葉樹林が改変されると生息場所が減少する。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、京都府自然環境保全課（2015）、村井・伊藤（2011）、日本直翅類学会（2006）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○	○											